

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

初冬の大菩薩嶺



大菩薩嶺(黒川山から)



大菩薩嶺山頂

20分。大菩薩嶺の山頂そのものは、うっそうとしたコメツガやダケカンバなどの樹林に囲まれ展望ゼロである。下山は大菩薩峠経由とする。峠までは、右手に富士、

12月上旬、山仲間の忘年会を兼ねて大菩薩嶺(2057m)に出かけた。夕方、大菩薩登山口の松葉荘に集合。温泉、宴会、二日酔いの山登りといういつものパターンである。それでも、宴会の前に殊勝に、近くの名利・雲峰寺にお参りし、1年間の無事を感謝した。

翌朝7時出発。快晴。積雪はせいぜい1~2cm程度。上日川峠に向かう車道は所々アイスバーン状になっていて恐ろしい。30分ほど歩いた千石茶屋で車道を離れ、ブナやミズナラなどの林の中の道をジグザグに登る。結構、きつい登りである。第一展望点からは緩やかな尾根道となり9時、上日川峠の長兵衛山荘に到着して一息入れた。

長兵衛山荘からは左手の林道を進み、福ちゃん荘から林道と別れて唐松尾根を登る。間もなく樹林帯が切れて、カヤトの原の急登になり10時半、大菩薩嶺の南肩の雷岩に出た。振り返ると甲府盆地を眼下にして、雪をまとった富士山、南アルプス、八ヶ岳の眺めが素晴らしい。



南アルプス遠望(雷岩から)

雷岩から大菩薩嶺を往復した。往復

南アルプスを眺めながら、明るいカヤトの原の稜線散歩である。神部岩を過ぎ、妙見ノ頭を右に巻き、昔の大菩薩峠だったという賽ノ河原を通る。親不知ノ頭を越え、

「大菩薩峠」の小説で知られる中里介山の文学碑に出

会うと、もうそこは介山荘の建つ大菩薩峠だった。ちょうど11時半。小屋前のベンチを占領して、横一線に白く輝く南アルプスの峰々をゆっくり眺めながらの昼食をとった。介山荘からの下りは、



賽ノ河原



大菩薩峠

河原

中里介山が小説「大菩薩峠」を執筆したとされる勝縁荘を経て福ちゃん荘に至り、後は今朝来た道をたどり、登山口帰着は午後3時となった。